

小学校 4 年学級活動

1 山口県独自の体験学習法「A F P Y (Adventure Friendship Program in Yamaguchi)」を用いた「豊かな人間関係づくり」

(1) 実施について

- ① 対象学年…小学 4 年生
- ② 日時…平成 21 年 12 月 22 日 (2・3 校時)

(2) 題材名 課題解決学習「ぼくたち・わたしたちの 2 学期」

(3) 目標

- (感情) 仲間を頼ることで可能性が広がる、その感覚を楽しむことができる。
- (行動) クラスの一員として、楽しく意欲的に活動に参加することができる。
- (認知) 2 学期で成長した自分たちを活動を通じて確認することができる。

(4) 本時案

- ① ねらい 全員でアイデアを共有しながら活動に取り組み、達成感を味わうことで、自分たちの成長を感じて 2 学期を締めくくることができる。
- ② 準備物 人数分のフェルトボール (毛糸のボールなど)
- ③ 学習の展開

活動の内容	AFPY の視点
<p>1 意識のウォームアップをする。 「バースディラインナップ」</p> <p>— ルール —</p> <p>(1) 声を出さずに誕生日順に並び直し、全員で円になる。</p> <p>(2) 誕生日を順に言ってゆき、並びを確認する。</p> <p>(3) エラーがあったらもう一度繰り返す。</p> <p>「ホグコール」</p> <p>— ルール —</p> <p>(1) 2 人組で合い言葉を作る。</p> <p>(2) 教室の前後に分かれ、目を閉じて向かい合う。</p> <p>(3) お互いが合い言葉を叫びながら近づいて出会う。</p> <p>2 本時の課題解決学習をする。 「オールキャッチ」</p>	<p>— 比喩 —</p> <p>声って大事。でもその分積極的なコミュニケーションが図れる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ ランダムに並び直して 2 人組を作る。 ・ きれいな円を意識させて、円で集まる環境を作る。 <p>— 比喩 —</p> <p>お互い声を出し、求めて初めて人との出会いがある。待っているだけではチャンスはこない。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ ゲーム的要素の強い活動をすることで子どもたちの意識を活動に集中させる。 <p>— 比喩 —</p>

<p>ルール</p> <p>(1) 全員が1つずつボールを手にする。</p> <p>(2) 1人が中央に立ち、一斉に投げ上げられたボールを申告した数だけ取るチャレンジをする。</p> <p>(3) 人数を3人まで増やし、最高何個とれるか挑戦する。</p> <p>(4) 何度か挑戦者を代え、全てのボールがとれるまで挑戦を続ける。</p>	<p>自分だけでやろうとすると限界がある。仲間に頼る意識が変わったとき、限りない可能性が広がる。</p>
<ul style="list-style-type: none"> ・活動のルールを知る。 ・話し合い（作戦タイム）をもつ。 <p>3 ふりかえりを共有する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・この活動でどんなことを感じたか。 <p>4 個人のふりかえりをする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ふりかえりシートに気づきや感想を書き込む。 	<ul style="list-style-type: none"> ・挑戦は1人から始めるが、数人に増えても全てのボールを取ることはできない。 ・「ここに投げて」という、相手と関わろうとする言動を見つけて取り上げることで、集中力を他者へと向けさせる。 ・体で作ったボックスに投げ入れてもらうといった、「相手に頼る」意識になったとき、「オールキャッチ」は成功する。 ・発表を強制しないふりかえりにしたいが、数人を指名して発表してもらうことも必要。 ・ふりかえりシートは担任が目を通し、必ず肯定的な所見を書き加えて生徒に返す。

2 備考

AFPYの活動は、冒険（アドベンチャー）がベースの体験学習である。安全な冒険のためには、それを行う準備が必要で、グループのメンバー全員が同じ目的を持って進み始めることと、全員で作成し全員が納得した約束が不可欠である。

今回の活動は、ゲーム的要素の強い活動を通じて、楽しい雰囲気の中で協力という意味について考えることができるようになってきている。クラスの目標や約束を確認して（作って）活動を始めるということが難しいため、ふりかえりが一般的になってしまうことも危惧されるが、SST（ソーシャルスキルトレーニング）の色の強い活動でもあるため、グループがグループとして成立するための具体的な意識や行動の指針となると考えることもできる。

AFPYは、クラスの間人間関係をより豊かにしていくために大変有効な教育活動であり、それにより個々が安心して学習に取り組める雰囲気をクラスに醸成することができる。

AFPYはその教育理念から、教科を越えた活動を展開することが可能であり、1年を通じて無理なく学級づくりに取り入れていくことができる。AFPYは多くある教育手法の一つであるため、これを実践しなくてはならないというわけではなく、AFPYを知らずとも、子どもをその気にさせ、結果を出し、意識と行動を次につなげていく温かい教育を展開されている先生方も少なくない。